

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	花園	種別：	施設入所支援
代表者氏名：	戸沢 武史	定員(利用人数)：	入所110名・通所20名
所在地：	〒 369-1246 埼玉県深谷市小前田2691	TEL	048-584-2506

③評価実施期間

令和 6 年 4 月 1 日(契約日)～令和 7 年 3 月 5 日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○創作活動や余暇活動、リハビリ等においては、利用者一人ひとりの想いを尊重し、様々な選択肢の中から好きなことを選んで自分の時間を楽しめるように働きかけている

日中活動では利用者の「好き」「やりたい」を伸ばすものであって欲しいと考え、障害特性や身体状況に応じて無理なく参加できる多様なプログラムを展開している。センター班(表現活動)、リサイクル班、小ホール班(音楽活動や体を動かす活動、散歩等)、園芸班(カブなどの野菜の栽培)の4つの班を作り、利用者は興味のある活動の体験利用を経て班に所属している。他にも木工や毛糸、卵の殻を使った作品、コースター、カレンダー、松ぼっくりのクリスマスツリー制作などもあり、近隣の道の駅での販売にも力を入れている。レクリエーションや趣味活動を日中活動と連動させ、理学療法士の助言のもと運動プログラムも活動に取り入れるなど、余暇も含め多様なプログラムで、利用者が持てる力を最大限発揮できる場の提供に努めている。

○外出や季節行事、レクリエーションの実施やキッチンカーの活用など、年間計画のもと楽しめる企画を施設全体で行っている

七夕、クリスマス、新年会、節分など季節ごとの行事を開催し、行事に因んだイベント食の提供や、外食、リクエストメニューなど、多様な形で食事を楽しめるように工夫している。「花園ふれあいの集い」では、利用者から募ったお楽しみ給食として焼きそば、たこ焼きなどのメニューを揃え、祭りの雰囲気を楽しんだ。キッチンカー(アイスクリーム)も好評だった。多様な社会体験を得られるような外出企画にはプラネタリウム、花火大会、群馬サファリパーク、さいたま水族館、初詣や近隣外出などが計画されており、いずれも障害の特性や年齢、身体状況に応じて無理なく参加できるように配慮した上で実施している。また、開放的で広い敷地では、園内除草のためにレンタルされているヤギがおり、世話をすることを通じて利用者の情操を育むなど利用者が自分の好きな時間を過ごせる環境を整えている。

◇特にコメントを要する点

○支援活動に関する取り組みの考えをベースとし、施設独自の中長期計画構想も検討されたい

利用者の特性に合わせ、個々の自由度が活かされ、利用者第一の支援活動が展開されており、利用者の権利や意向等を尊重した取り組みが行われている。また、利用者の健康的な生活を大切にした支援が中心となっており、それらを踏まえた障害者支援が主体となっている。法人の中長期計画の方向性を踏まえ、施設独自の支援に向けた取り組みを考慮し、中長期計画構想の策定も検討されたい。職員や利用者からは建物本体の老朽化を指摘する意見や設備をはじめとする改修・改善を要望する声も多く窺え、営繕計画に関する構想に沿った将来に向けての建て替え・改修計画、広い敷地を活かした支援活動の展開等をも盛り込んだ方向性を示す道しるべ的なものを示すことで、利用者・職員の将来への不安軽減、取り組んでいこうとする力の醸成につなげられたい。

○施設の特性を的確に表現する言葉をもとに、目指す方向性を取りまとめ明文化されたい

利用者の特性に合わせた様々な支援活動を展開しており、利用者の意見・意向等に重きを置いた考え方・取り組みが進められている。また、施設支援活動は生活の場という視点から進められており、施設独自のコンセプトを表現するキャッチフレーズ的な言葉を職員・利用者の意見を参考に検討されたい。法人の他施設との違いや目指す方向性を明確にして支援への考えを確立することで、職員の働きがいややる気のさらなる向上、利用者の施設への想いの孤高感がさらに高まり、意欲の向上にもつながると考える。

○危機管理マニュアル・事業継続計画を取りまとめ、避難訓練や実践的な訓練も行っており、想定や条件を変えた訓練を試行し、さらなるへの取り組みを進められたい

利用者・職員の生命を守ることを最優先に、様々なリスクに対処するマニュアル、事業継続計画（BCP）を策定し、避難訓練・総合防災訓練を行い、自然災害時における職員の意識向上を進めている。BCPの勉強会を実施したり、緊急時を想定したカードを利用した訓練を行い徹底した安全管理につなげる等、利用者の安心で安全な施設生活を維持できるよう職員全体で取り組んでいる。避難誘導等は当然のこととし、炊き出しの実践、小型発電機を使用した実地訓練など、自然災害の発生時に即した訓練や試行をし、様々な知見や情報が収集され、防災・減災に向けた取り組みを実践している。様々な想定や条件などを考慮した実践的な訓練を取り入れ試行して、利用者や職員から寄せられる意見や得ることができた情報をBCPの再確認・見直しへとつなげ、さらなる安全確保に向けた共有・取り組みなどに活かされたい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

聞き取り調査にて、施設のストロングポイントについて、客観的な視点からご教示いただき、たいへん励みになりました。また、ご指摘いただいた取り組むべき課題については、改善に向けて取り組んでいきたいと思っております。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり